

安心で身近な「恵那の食」づくり

■持続型農業 「太陽熱を利用した土壌処理技術」実証ほの取組

恵那農林事務所では、令和4年度から管内の先進的農業者や関係機関と連携して、有機農業の取り組み拡大に向けた実証ほを設置し、栽培技術の現地検討を行っている。

今年度は秋作の露地野菜を対象に、太陽熱を利用した「太陽光養生処理技術」や、長期間利用可能なマルチ資材の現地実証を進めている。

8月中旬には、恵那市中野方町の有機生産者ほ場で、農林事務所職員がポリフィルムによる「太陽光養生処理」の被覆作業を支援した。

農業普及課では、地温測定による土壌処理効果の確認、フィルム除去後の土壌物理性や、作付け時の生育等について今後調査を行う。

実証ほから得られたデータや、これまで有機農業に取り組んできた農業者の経験をもとに、この地域に合った栽培技術の検討を重ね、持続性の高い農業生産への取り組み拡大を図りたいと考えている。



【ポリフィルムによる被覆作業の様子】

(地域支援係)